

# 《バウンドテニス》

・テニスの 6 分の 1 の広さのコートで、小型ラケットを使い、手のひらで打つ感じで楽しむことができるミニテニスです。

写真



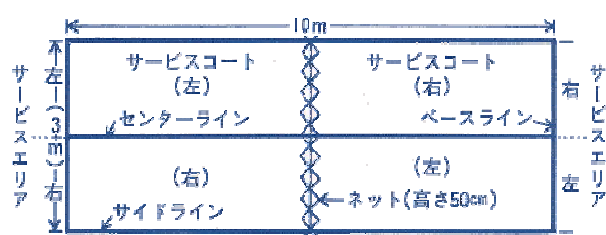
起源

・メルボルンオリンピック、レスリング金メダリストの笹原正三が 1980 年に考案した。

人数

・1 対 1 (シングルス)、2 対 2 (ダブルス)、3 対 3 (6 人 1 チームのラリー戦)

場所



\* 当センターでは 9 セット完備しています。

・ネットの高さは 50cm

・専用的人工芝コートを体育館に敷いて実施する。

進め

方

- ・トス (ジャンケン) を行い、勝者がサービス又はコートの選択を行う。
- ・サービスは 1 球のみ、腰の高さより下で打ち (アンダーサービス)、最初は右対角に行く。以後、ポイント毎に左右交互に行く。
- ・サービスのレシーブはワンバウンド後、ツーバウンドする前に行く。
- ・サーバーはサイドラインとセンターラインの仮想延長線の間で、ベースラインの後方から両足を地面に接したまま、フォアハンドでサービスを行わなければならない。
- ・レシーバーは、サーバーのラケットからボールが離れる前に、コートに入ってはいけない。
- ・サービスは 1 ゲーム終了後 (4 ポイント先取)、交互に行く。
- ・ダブルスのゲームは、4 人が交互にボールを打たなければならない。
- ・チェンジコートは奇数ゲーム終了ごとに行く。
- ・ラリー戦は、6 人が 2 組に分かれて順番に打ち合い、決められた時間 (1 分間) 内に何回ラリーが続くかを競う。 (ラリー中、ボールをノーバウンドで打ってはいけない。)

勝敗の決め方

【シングルス・ダブルス】

- ・4 点先取で 1 ゲーム勝ちとなる。ただし、3 点对 3 点の時はデュースとなり、2 点先取した方が勝ち。
- ・試合は 9 ゲームで行い、5 ゲーム先取した方が勝ち。

【ラリー戦】

- ・1 分間のラリーを 2 回行い、2 回の合計回数をチームの得点として、得点の多いチームの勝ちとなる。
- ・同点の場合は 1 分間の延長戦を行う。

その他

\* 次の場合は、失点となる。

- ・ダブルスでパートナー同士が交互に返球しなかった時
- ・ボールがネットにかかった時
- ・相手コートのライン外にボールが落ちた時
- ・ボールがツーバウンドする前に返球できなかった時
- ・サービスをノーバウンドで打ち返した時
- ・サービスが相手のサービスコートに入らなかった時